

若き友へ

1992年11月5日

経済学部教授 高島 均

毎年、折にふれ、その時その時に新聞やテレビを賑わしている出来事について、私は如何に考えるか、そして君達は如何に考えるか、授業の席で問いかけてきました。しかし、今年は、授業計画の消化に追われ、このような機会はありませんでした。そこで、これからは、書簡の形で伝えようと思います。

所感1 - コロンブスのアメリカ大陸到達500年にあたって

近頃、コロンブスのアメリカ大陸「発見」500周年をめぐって、かしましくマスコミで騒がれました。「発見」ではなく「到達」である、ということだけでなく、「コロンブス」つまりスペイン・ポルトガルが、いかにアメリカ大陸において、先住民族を弾圧したか、彼らの文明を破壊し、一方的にキリスト教文明を押しつけたか、ということに関して、当のスペイン・ポルトガル人の子孫達によって、その評価の再検討と反省の声が湧き起こっています。そして、これに便乗した（という風に私には見える）日本のマスコミを中心とした「インテリ」達が、騒ぎ立てました。明治学院大学においても、ある教員が、「『カトリック』のやったことは本当に酷いことだ」と、宗教に結びつけて鼻息を荒だてて語っているのを耳にしました。

こうしたことを見聞きする度に、一体、彼等は、日本人には何の「原罪」もないと信じきっているのだろうか、と訝しく思います。日本人が、すなわち、「和人」がアイヌ民族にしてきたこと、「ヤマトンチュ」が琉球民族にしてきたことを少しでも考えるならば（既にアイヌの文化も琉球の文化も『絶滅危機種』です）、決して、スペイン・ポルトガル人が他民族にしてきたことを自ら反省しようというのに乗じて彼らの悪口を言ったり、オランダ・イギリスなどのプロテスタント諸国がインド・東アジアでしてきた事を無視して、スペイン・ポルトガルの過去を「カトリック」と結びつけて批判する、というような「悪乗り」はできまいと思います。こうした人達の言動を見ていると、「日本人」の業の深さを思い知らされると同時に、この日本で、日本人であることによって保護を受けるよりも、「日本人」から外れていることを理由に数多くの不快な経験をし、外国においても、

日本人の集団の中に居たにもかかわらず「我が同胞を見つれたり」とでもいうように喜々として広東語で話しかけてきた広東人、日本人と見れば、片言の日本語で売春を勧誘しにくるというソウルの街角で韓国語で話しかけてきた韓国人を想い、かかる自分を幸せに思います。スペイン・ポルトガルの過去をとやかくいう前に、日本人である私たちは、日本人の過去を問題にすべきだと思えます。

所感 2 - アメリカ留学日本人高校生射殺事件報道に因んで

先頃、アメリカにおいて、ハロ - ウィン・パ - ティ - に友達と出かけた日本人高校生が、訪問先を間違え、「Freeze動くな」という言葉が判らずに射殺されたという事件が発生しました。この事件に関連して、マスコミは、またもや、アメリカという国が、犯罪が多く病んだ国である、という論調で報道しています。しかし、こうした報道には、「日本もまた病んだ国である」事を無視したまま他国を批判の俎に乗せる、という匂いを感じ、不快に思います。それぞれの国は、それぞれの価値判断を持ち、ある国・社会において、決して許されないような事でも、他の国・社会においては許容範囲の中に入り、他方、ある国・社会において許容範囲に入るような事でも、他の国・社会においては決して許されない、という事が多々あります。それは、どちらが正しくてどちらが間違っている、という問題ではなく、それぞれの国・社会が、いかなる価値を紐帯として形づくられて来たかという、文化と歴史の問題なのです。

ハロ - ウィンの祭りに関しては、何年か前、子供とともに滞在したバンク - バ - での思い出があります。ハロ - ウィンはカナダにおいては大きなお祭りです。この日の為に、多くの家庭では、カボチャをくりぬいて顔を作り、中にロウソクを入れ、夕闇が迫るとともに玄関に飾ります。このカボチャは Jack of Lantern ジャコランタンと呼ばれますが、ジャコランタンの替りに、髑髏の絵を飾る家もあります。そして、家々の屋根や軒は、様々なイルミネーションで飾りたてられます。この頃になると、何処にこんなに子供がいたのかと思う程、あちらこちらの街角に、子供が数人づつグル - プになり、小さな子供は親に連れられ、思い々々の仮装をして、ジャコランタンや髑髏の絵が飾られている家々を回って、御菓子をねだります。“Trick or treat” トウリツカ - トウリ - トウというのがおねだりの言葉です。御菓子をもらえない場合は、Trick（例えば、その家をトイレットペ - パ - でぐるぐる巻にする）をするのです。私の子供も、ス - パ - の大きな袋いっぱい御菓子を集めてきました。

しかし、この子供にとって楽しいお祭りも、カナダのような治安が比較的良いとされている国においてさえ、かなり危険を伴うようになりました。私が滞在した年の2年前、バンク - バ - で、ある子供が、ハロ - ウィンで貰ったリンゴに針がさされていて、それを食べて大怪我をしたのです。それ以来、どの家でも、子供がもってきた御菓子は、親が全部点検し、ラップされていないものは捨てさせるという事でした。私も、子供が貰ってきた御菓子を全部点検し、ラップしていないものは全部取り上げました（但し、私は、それらを捨てずに自分で食べましたが）。

日本においても、農家の人達は、自分達が食べる野菜は、全く農薬を使わないで作った自家消費用の野菜だけであると聞きます。たまたま、他家から貰ったものは、農薬をかけて作ったものかもしれないので、捨ててしまうという事も聞いたことがあります。日本においても外国においても、自分自身を守るのは自分自身しかいない、という事を充分認識して欲しいと思います。